

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社 ILIFE LIFE STANDUP			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年 2月 2 8日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3 3 人	(回答者数)	2 1 人
○従業者評価実施期間	2025年2月1日 ～ 2025年2月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 名	(回答者数)	7 名
○事業者向け自己評価表作成日	2 0 2 5 年 4 月 16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・「適切な支援の提供」で高い評価をいただいております。 ・子どもが色々な職員と関わりを持つことができ、職員一人ひとりが本人の得意不得意を的確に把握して支援をしてもらっているというお声をいただきました。	・メインの療育でもある英語クラスでは個々の子どものレベルに合わせたレッスンを行っているのはもちろんですが、それ以外の時間も一人ひとりのその時々々の環境やモチベーションに配慮しながら、個々の課題を意識しながら関わりをもって、一緒に遊んだり、様々な活動に取り組んだりできるように意識して支援を行っています。	・日々の生活の中で一人ひとりの英語力を更に伸ばしていけるように、すべての職員が少しでもたくさんの英語ワードを使って子どもたちに関わっていけるようにしていきたい。 ・子どものその時々々の成長だけでなくその先にあるものもしっかりと見通せる力を職員一人一人がもって支援に当たれるようにしていきたい。
2	・「保護者への説明等」で高い評価をいただいております。 ・保護者様が悩みがあると気軽に相談ができ、支えてもらっている。というお声を普段から頂いております。	・保護者様とは普段から、連絡を細かく丁寧にとるようにしているので、保護者様との距離が近い存在になれつつあるのかと思われます。そういう部分からか、たわいのないお話から子育ての難しさ特性についての悩みや保護者様自身の悩みもお話してくださる方もいらっしゃるので、微力ながらお役立てしていると嬉しく感じ、更なる活力となっています。	・今後も引き続き、オフィシャルラインを活用して保護者様との連携を強めていき、ご利用者様やそのご家族が気持ちよく学校生活や日常生活を過ごすことができるように良き理解者の一人として、全力でサポートをしていきたいと思えます。
3	・「適切な支援の提供」で高い評価をいただいております。 ・長期休暇のプログラムを子どもがとても楽しみにしている。というお声を頂いております。	・保護者様・ご利用者様にご満足いただけて、またいつも楽しみにしていただけて大変光栄に思っております。 長期休暇時の外出については一人ひとりにご満足してもらえるように、ご利用者様の特性を配慮した上で行先をいつも検討させていただいております。	・今後も引き続き、外出活動だけでなく、テーマや課題を明確に打ち出したクッキングやクラフトを通してお子様たちの生活スキル向上や自立した生活を目指に、一つ一つ経験を積み重ねていけるような活動を取り組んで行きたいと考えております。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「父母の会の活動の支援や保護者会等の開催等により保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等によりきょうだい同士の交流の機会が設けられているかなど、きょうだいへの支援がされていますか」で機会がないと感じられている割合が高い。	・参観等の開催は検討はしていますが、事業所が目隠し等ができる環境ではない事や集団療育となっているので、ご利用者様の普段の様子・自然な姿というものはなかなか見られない状況になるのではないかと・ということが懸念され開催にはまだ至っていない状況です。	・普段の療育という形から少し離れて、体育館を借りてそこで運動プログラムと英語を合体させたイベントを開催し、療育の様子、英語レッスンの様子を見ていただきながら、保護者様と児童発達支援管理責任者でペアレントトレーニングや保護者会の開催を検討しつつある所なので次年度はぜひ実施につなげていきたいと思えます。
2	「放課後児童クラブや児童館との交流や地域の他の子どもと活動する機会がありますか？」で機会がないと感じられてる割合が高い。	・子どもたちの特性上、初めての場所・初めての人との交流が苦手で強いストレスを感じるという部分があり、敢えて負担がかかることを企画する事にも考えが及んでいない。もし開催できれば、素晴らしい事に違いないが、子どもたちにかかるストレスと帰宅してからしんどさを想像すると、なかなか実行できない部分である状況です。	・左記のようなことがストレスに感じないご利用者様がもし、偶然に重なった日程があるならばその時にはぜひ実施し、障害福祉（放課後等デイサービスという存在・発達障がいがあってもなくてもみんな一緒という概念）を広く一般社会に知ってもらえる機会にして行きたいと考えています。
3	「事業所では家族に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか」で機会がないと感じられている割合が高い。	・現在家族支援プログラムや研修会というものは開催はされてはいませんが、その時々々の状況を見計らって令和6年度は専修高等学校の先生に来ていただき学校説明会を当事業所で開催しました。子どもたちの特性上早め早めに対策をしていかないといけないという観点から実施させていただき喜んでいただけました。	・普段の療育という形から少し離れて、体育館を借りてそこで運動プログラムと英語を合体させたイベントを開催し、療育の様子、英語レッスンの様子を見ていただきながら、保護者様と児童発達支援管理責任者でペアレントトレーニングや保護者会の開催は検討しつつある所なので次年度はぜひ実施につなげていきたいと思えます。